

北日本漁業経済学会 ニュースレター

北日本漁業経済学会 第38回大会・ 「福井県小浜大会」のご案内

既にお知らせしましたが、北日本漁業経済学会第38回大会は、下記のように10月8日から10月10日の日程で、福井県立大学小浜キャンパスを会場として開催致します。会員の皆様にはふるってご参加頂くよう重ねてお願い致します。また、会員外の方も自由に参加できますので、員内外にかかわらずお誘い合わせの上ご参加下さい（ただし資料代1,000円は申し受けます）。

会 場 福井県小浜市・福井県立大学小浜キャンパス交流センター

日 程

10月8日（木）；理事会 18時～

場所：働く婦人の家・中会議室（JR小浜駅より徒歩5分）

10月9日（金）；シンポジウム 9時～17時 場所：福井県立大学交流センター

懇親会 18時～20時 場所：同上

10月10日（土）；一般報告 9時～14時頃まで 場所：同上

シンポジウムテーマ；

「日本海におけるカニの漁業管理と地域漁業構造」

1. コーディネーター解題

福井県立大学 加藤辰夫（コーディネーター）

日本海の中央部に面する福井県立大学の小浜キャンパスで北日本漁業学会を開催するにあたり、地域の漁業にもっとも深く関連するテーマとしてカニ漁業を選びました。報告者として、兵庫県と福井県で当該漁業資源の調査研究をしてこられたお二人に実態や経過の報告をお願いし、漁業経済研究者のお二人には当該漁業外または地域外あるいは外国からの幅広い視点にたって管理の実態を検証してもらう予定です。

日本海西部海域の主要漁業であるカニ漁業には、底びき網漁業で漁獲されているズワイガニと、かご漁業によって漁獲されているベニズワイガニの二つの漁業があります。ズワイガニはTAC対象魚種であり、さまざまな漁獲規制によって資源の回復が実現されてきました。他方、ベニズワイガニの方は最近まで漁獲量の減少が続きましたが、TAC対象魚種ではないにもかかわらず鳥取県境港の大臣許可船については個別割り当てが導入され、新たな漁業管理に取り組みはじめて注目されています。

この二つの漁業を比較しながら、地域漁業の基礎的な条件として、資源・漁場条件、漁業管理、漁業経営構造、流通・加工・消費などの市場条件、をそれぞれ明らかにした上で、TACやIQ（個別

割当)などの新しい漁業制度の意義を問い直したいと思います。おりしも昨年の漁業制度改革論議の中で、個別割当や譲渡可能個別割当などの早期導入も争点の一つとなりました。しかし、欧米型の制度を導入したとしても機能するとはかぎりません。地域漁業の条件をふまえて新しい制度の有効性を検討し、真に必要な漁業管理制度とはなにかを考えることが必要だと思えます。県の試験研究者の方からはカニ漁業の実態や資源回復への取り組み、流通などの実態を中心に報告していただき、その地域漁業の特徴をふまえたうえで個別割当制度を検討し、また北米の管理システムとの比較なども加えて、地域漁業のあり方を議論したいと考えています。

2. 兵庫県のズワイガニ漁業とベニズワイガニ漁業

兵庫県但馬水産事務所 中岸明彦

兵庫県の日本海側(但馬海区)におけるズワイガニとベニズワイガニの2007年の水揚量は、それぞれ1700トン(全国1位、シェア32%)、2700トン(全国4位、シェア13%)、水揚金額は、4,096百万円、847百万円で、両魚種を合わせると但馬海区全体の水揚金額の52%を占める基幹魚種である。

しかしこの間、両魚種とも極端な水揚げの減少を経験しており、現在の水揚げは、その後に漁業者が取り組んだ資源管理の成果と言えるものである。取り組みは現在も休むことなく続けられているが、現状は決して楽観できるものではなく、残された課題も少なくない。

本報告では、但馬海区における両魚種の漁業の歴史と現状、利用と流通の実態を紹介し、残された課題について明らかにする。

なお、報告の流れは次の通りである。

1. 漁業の概要
漁法、漁場、水揚量と漁船隻数の推移と現状
2. 資源管理の取り組み
これまでの経過と現在の取り組み
3. 利用と流通
価格の動向、利用と流通の実態、高付加価値化の取り組み
4. 今後の課題
資源管理の課題、利用と流通の課題

3. 福井県のズワイガニ(越前がに)漁業

福井県農林水産部水産課 安達辰典

ズワイガニは2007年の水揚げ金額が17億5千万円と、同年の福井県の海面漁業水揚げ金額の2割近くを占める重要な魚種である。

ズワイガニの雄ガニは「越前がに」として全国に広く知られており、福井県を代表する魚として平成元年に「県のさかな」に指定され、観光資源として重要な魚種でもある。沖合底曳網漁業と小型底曳網漁業で漁獲され、漁場は本県沖合の水深200～350mの海域が中心となっている。漁獲量は1952～1968年には1,000～2,000トンであったが、その後急減し1979年には210トンとなった。その後、漁業管理を進めた結果、近年では500～600トンにまで回復した。

本報告では、漁業構造の推移と現状、資源の現状をふまえて、今まで行ってきた漁業管理の内容を述べるとともに、現在の底曳網漁業の経営状況、ズワイガニの流通実態と価格および本県から始まったズワイガニのタグの実態について述べ、今後の漁業管理の方向性を示すこととする。

尚、報告の流れは次の通りである。

1. ズワイガニ漁業の概要
漁法、漁船の規模別隻数の推移と現状、漁場
2. ズワイガニ資源の概要
生態、資源構造、漁獲量の推移、資源水準
3. ズワイガニ資源の管理
管理の歴史、管理の現状(漁期、漁場、保護礁、越前網等)
4. 漁業経営構造

ズワイガニ銘柄別単価、漁船規模別の経営状況（小底、沖底）

5. 流通・加工の実態

流通の現状、加工品

6. その他

タグの現状、「越前がに」へのこだわり

4. 漁獲量個別割当制（IQ制）とその合意形成 —日本海ベニズワイガニ漁業を事例として—

中西孝（中央水産研究所）・上田勝彦（水産庁）

我が国における漁獲量個別割当制（IQ制と称する）では、漁獲量等は主として均等割（プール計算制を含む）で配分されているが、日本海ベニズワイガニ漁業では、資源回復計画の一手法として過去の漁獲量実績を勘案・試算して割当量を決定している。IQ制の導入時の漁獲量配分手法は、漁業経営に直接影響する要素を含むため、合意形成には困難がともない、この回避のため均等割を用いる事例も見られる。

IQ制導入時における意思決定・合意形成では、関係者の妥協点をさぐるだけでなく、資源管理・漁業管理の面から合理的でより透明性を確保した、IQ配分手法の確立が求められる。そこで、既存のIQ配分手法等の聞き取り調査や簡単な合意形成モデルの作成から、IQ配分での合意形成の経済的側面を検討し、さらに、日本海ベニズワイガニ漁業の漁獲量実績にもとづくIQ配分等における合意形成の必要条件、手法を検証することから、IQ制成立過程での意思決定・合意形成を明らかにしようと試みた。

報告の簡単な項目

1. 我が国のIQ制についての事例報告
北海道ベニズワイガニ漁業、ミナミマグロ漁業等
2. 日本海ベニズワイガニ漁業の資源回復計画の概要
3. その一手法としてのIQ制での意思決定・合意形成等
4. IQ配分での合意形成の簡単なモデル
5. まとめ

5. カナダ・アラスカのズワイガニ漁業と加工業

福井県立大学 東村玲子

カナダ大西洋岸や米国アラスカ州でもズワイガニは漁獲され、ほぼ全量がセクション（二肩に切断したもの）に加工されている。その製品のメイン市場は米国で、日本へは直接輸出されることもあるが、最近では大半は中国でさらにミート（むき身）に加工された後に日本に搬入されている。両者の「世界市場」における地位は漁獲量の変動を要因として2000年代初頭に交代した。すなわち、アラスカ産ズワイガニの漁獲量が減少すると対照的にカナダのNewfoundland & Labrador州（NFLD）で新しくズワイガニ漁業が伸張したのである。本報告ではこのNFLDの漁業・加工業の構造とその管理を分析した後に、アラスカに関しては漁業と加工業の管理に注目して概観する。NFLDの漁業ではきめ細やかなライセンス制とIQ制が採られている。一方、アラスカでは漁業はITQ制、加工業では加工量割当制が採られているが、両者が非常に密接にリンクしているのが特徴的である。

尚、報告の流れは次の通りである。

- 1 日本市場に流入する北米産ズワイガニの動向
日本のズワイガニ輸入動向
中国でのズワイガニ再加工の動向
- 2 北米産ズワイガニの漁業とその管理
カナダ・Newfoundland & Labrador州の漁業・加工業とその管理
米国・Alaska州の漁業・加工業とその管理
加工業のマーケティング力
- 3 まとめ 北米ズワイガニ漁業の漁業構造と漁業管理

<宿泊等案内>

前号でもお知らせしましたが、小浜市内のホテル等を改めてご案内致します。大会会場である福井県立大学小浜キャンパスは市街からかなり離れており、当日は下記宿舎経由会場行きのバスを運行する予定です。なるべく下記の宿舎及び会場行きのバスをご利用頂きますようお願い致します。

- ・ **ホテルアーバンポート** 〒 917-0051 福井県小浜市白鳥 72-1
TEL0770-53-2001 FAX0770-53-2003 E-mail:info@urban-port.jp 6825 円～ <http://www.urban-port.jp/>
- ・ **せくみ屋** 〒 917-0069 福井県小浜市白鬚 113
TEL0770-52-0020 FAX0770-52-1230 6800 円～
- ・ **若杉本館** 〒 917-0077 福井県小浜市駅前町 7-16
TEL0770-52-0900 /FAX 0770-52-4067 5,775 ～ 6,825 円
- ・ **若杉別館** 〒 917-0077 福井県小浜市駅前町 9-10 TEL 0770-52-0294 5,775 ～ 6,825 円
- ・ **若杉末広亭** 〒 917-0078 福井県小浜市大手町 8-5
TEL 0770-53-0202 FAX 0770-53-1602 6825 円～ 若杉グループ <http://www.wakasugi.biz/index.html>
- ・ **れんが亭** 〒 917-0077 福井県小浜市駅前町 9-18 TEL0770-52-1004 6300 円

* 小浜市までの交通案内

東京方面から 東京→（ひかり）→米原→（しらさぎ）→敦賀→（J R）→小浜
大阪・京都方面から 大阪→（J R）→京都→（J R）近江今津→（J Rバス）→小浜
近鉄バス：近鉄なんば駅→地下鉄東梅田駅→大阪国際空港→小浜
近鉄バス：http://www.kintetsu-bus.co.jp/highway/routelist22_3.html

<事務局からのお知らせ>

①お弁当等の事前申込みについて

大会会場付近には飲食店、コンビニ等がありませんので、昼食についてはお弁当の手配を現地事務局で承ります。お弁当の手配が必要な方は、同封の葉書にて事前にお申し付け下さい。また、懇親会につきましても、事前に同葉書にて参加申し込みを済ませて頂くようお願い致します。

②理事会の開催について

上記の大会開催日程にもありますように、10月8日（木）、18時より、小浜市・働く婦人の家に於いて、北日本漁業経済学会理事会を開催致します。理事・監事の皆様は万障お繰り合わせの上ご参加下さい。なお、理事会では夕食の準備をしておりません。予めご承知おきください。また、理事・監事の方で、本理事会に欠席される方は、メール等で事務局宛、早めにご連絡下さい。

北日本漁業経済学会事務局（事務局長；宮澤晴彦）
〒 060-8589 札幌市北区北 9 条西 9 丁目
北海道大学大学院農学院 水産資源経営学分野
TEL/FAX 011-706-4139
〒 041-8611 函館市港町 3 - 1 - 1
北海道大学水産学部 海洋社会科学分野
TEL 0138-40-8834 FAX 0138-40-8835
E-mail miyazawa@fish.hokudai.ac.jp
HP address ; <http://www.hucc.hokudai.ac.jp/~h14306/>